

Information

アンケートご協力のお願い

このたび、国連WFPをお支えいただいている皆さんに、アンケートへのご協力を
お願いいたします。

本アンケートは、全国の多くの非営利団体が協力して行う初めての「寄付者意識
調査」です。皆さまのご意見は、今後の寄付のあり方や、国連WFP協会を含む非営利
団体の活動の改善に向けて、大きな力となります。ぜひ率直なお声をお聞かせください。

※本アンケートは、国連WFP協会にご寄付いただいた方を対象としています。

回答期限:2026年3月31日(火)まで

アンケートは
こちら

※所要時間:3~5分



<https://forms.office.com/r/zKpS8L45m9>

皆さまのあたたかいご協力を
お願いいたします。

「WFP ウォーク・ザ・ワールド 2026」

参加費の一部が国連WFPの学校給食支援への寄付につながる、
チャリティウォーキングイベントを開催します。どうぞお楽しみに!

日程:

横 浜 5月10日(日)
大 阪 5月31日(日)
名古屋 6月7日(日)



詳細は3月中旬に
WEBサイトにて
公開予定です!



昨年(2025年)の開催風景／横浜会場

「遺贈寄付セミナー」開催のお知らせ

4月、東京・横浜エリアにて「遺贈寄付セミナー」を開催いたします。
将来、大切な財産や想いをどのように活かすか——その選択肢のひとつが「遺贈寄付」です。

本セミナーでは、弁護士の先生を講師に迎え、遺贈寄付や相続の
基本を事例とともに分かりやすく解説いたします。
ぜひ皆さまのご参加をお待ちしております。

詳細
お申込みは
こちら



遺贈寄付セミナーの様子(2025年秋)

レッドカップキャンペーン



国連WFPが学校給食を入れる容器として使っている「赤いカップ」を目印に、毎日のお買物で学校給食支援ができる国連WFP協会のレッドカップキャンペーン。

新たに1社が参加しました。売り上げの一部は学校給食支援に寄付されます。

<https://www.jawfp.org/redcup/>



国分グループ本社株式会社

特設ECページ
「ROJI日本橋
ONLINE STORE
国分レッドカップ
キャンペーン」

世界食糧計画(WFP)日本事務所
認定NPO法人国連WFP協会

<https://ja.wfp.org/>

ご寄付はこちら



ご意見・お問い合わせ

0120-496-819

受付時間 9:00~18:00
(通話料無料・年始を除く年中無休)

<https://jawfp.my.site.com/workplace/s/Contact>

お問い合わせ
フォーム



飢餓から救う。
未来を救う。

SAVING LIVES CHANGING LIVES

国連の食料支援機関

国連WFP
ニュース Feb. 2026 Vol.78

© WFP/Nommiyid Chantu

ナイジェリアのWFPが支援する保健センターにいるマリアムさん(20歳)と娘のザラちゃん(1歳)。ザラちゃんが重度急性栄養不良と診断されたため、栄養補助食品の配給を受けました。

明日を信じる、
母親たちとともに歩む

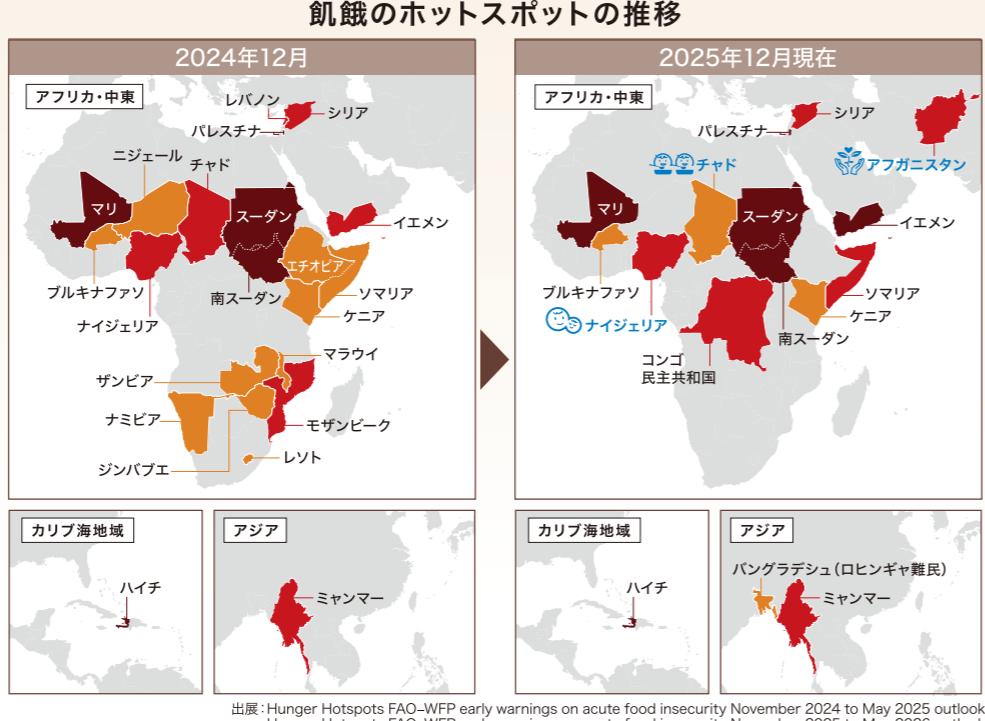
明日を信じる、母親たちとともに歩む

ホットスポットで生活する母親たちの声と、そこに寄り添う支援を見つめます

飢餓のホットスポット

皆さん「飢餓のホットスポット」と呼ばれる地域があることをご存じでしょうか。これらの地域では数百万人が飢きん、または飢きんの恐れに直面しています。2025年12月現在、ホットスポットの数は南スーダンやパレスチナなど16か所に上り、このうち14か所では、紛争や武力衝突が飢餓の大きな原因となっています。

- 飢餓の最高警戒レベル
- 飢餓の懸念が非常に高い
- 急性食料不安が悪化する可能性が高い



これらの地域で飢餓に苦しむ人の多くは、立場の弱い女性や子どもたち



© WFP/Ali Jadallah
WFPシンディ・マケイン事務局長

WFPのシンディ・マケイン事務局長は

「母親たちは子どもに食べさせるために自分の食事を抜き、家族は生き延びるために、残り少ない物資を使い果たしています」

と警告し、こうした家族を救うことが急務だと訴えています。

WFPはこれらの国・地域で「緊急食料支援」や「母子栄養支援」などを続けていますが、母親の自立に向けたサポートにも力を入れています。母親たちが自力で生計を立てられるようになれば、その子どもたちも安定した生活を取り戻し、教育の機会を得て、より良い人生を切り拓くチャンスが生まれるからです。

つまり 皆さんWFPを通じて差し伸べる手は、
母親たちを介して未来を担う子どもたちの手にもつながっているのです。



母子栄養支援

ナイジェリア

娘が成長して学校に行き、結婚して仕事に就く姿が見たいです。

——ナイジェリア国内避難民キャンプで暮らすパワガナ・モドゥさん



パワガナさん(25歳)は、反乱軍の襲撃により避難を余儀なくされ、4人の子どもとともに避難民キャンプで生活しています。2年前に夫を病氣で亡くしてからは、家族を支えるのはパワガナさん一人。

最近、2歳の娘ザイナブちゃんは栄養不良と診断されました。診療所では栄養不良の子どもに提供される栄養補助食品の治療を受け、少しづつ回復つつあります。

WFPはザイナブちゃんのような幼い子どもや妊産婦に栄養補助食品を提供するほか、早期診断・治療、母親への栄養指導などを行っています。

学校給食支援

チャド

学校給食は、子どもたちの勉強にとても役立っています。

——スudanからチャドに逃れたアチエ・アダム・イッサークさん



チャドには国外から多数の難民が流入し、地元住民との緊張も生まれています。WFPの学校給食支援は、食料を巡る地元住民と難民との軋轢を和らげ、双方を融和させることにも貢献しています。

緊急支援・自立支援

アフガニスタン

娘たちは学校に行ってほしい。私はパン職人であることに誇りを持っていますが、娘たちはそれ以上の選択肢を持ってほしいのです。

——アフガニスタンの母親、ビビ・シャリファさん



現在この国では、女性の教育や雇用が厳しく制限され、12歳で結婚したビビさんも学校に通ったことはありません。しかし次世代の女性たちには教育を受け、未来への選択肢を広げてほしいと願っています。

